

④海外・国内）出張報告書（学生用）

2018 年 11 月 12 日提出

氏名	鳥居 佳子
所属	獣医学院・繁殖学教室
学年	博士課程 2 年
出張先	インドネシア・バリおよびスマトラ（ウェイカンバス国立公園）
出張期間	2018 年 10 月 26 日から 11 月 7 日
目的	第 11 回アジア保全医学会出席およびゾウ採精研修

活動内容（2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい）

インドネシアのバリで開催された第 11 回アジア保全医学会に出席した。また、学会終了後にインドネシアのスマトラ南東部に位置するウェイカンバス国立公園を訪問したため、以下に報告する。

1. 第 11 回アジア保全医学会（10 月 27 日～29 日）

本学会は日本野生動物医学会が主導で創設した保全医学を対象としたアジア唯一の学会である。アジア各国で毎年開催されており、2021 年には日本（札幌市）での開催を予定している。今大会は、オーストラリア支部 Wildlife Disease Association（WDA）と合同大会のため、アジア地域だけでなく、ヨーロッパやオーストラリアからの参加者も多く、過去最大規模（約 200 名）であった。一方で、日本からの参加者は過去最低で 10 名ほどしかおらず、日本からの参加者が少ないのは残念に思われた。この WDA は、来年からアジア地域にも設立されることとなり、アジア圏における野生動物研究の発展が期待されている。Keynote speaker は、感染症・繁殖・臨床（今回は歯科学）の分野から各 1 名であった。口頭発表はそれぞれ 11 セクションに分かれて行われ、ポスター発表は昼休憩時に行われた。Tea break が多く、参加者が活発に交流を深めていた。私は、インドやネパールからの参加者と交流することができた。特にネパールは、日本での留学経験者が多いことから日本との関わりの深さを改めて感じた。発表は、症例報告や活動紹介が多かったものの、多くの動物種を対象に「保全」のために日々奮闘している研究者や飼育現場の発表を聞くことができ、自らのモチベーションを高めることができた。繁殖に関する発表は、自分の含め 5 題と少なかったが、他では聞くことができないサメからの精液採取やゾウの精液保存に関する最新の情報を得ることができた。会期中には、次回の学会で行うワークショップの内容やアジア圏内の情報共有およびネットワークの形成方法に関して活発なディスカッションが行われた。特に、病理解剖の方法、疾病および感染症の情報などが、

他国でも求められていることが分かり、野生動物や動物園動物における死因特定や臨床に関する状況は日本と同じであることが分かった。また、学会認定の **diploma** や同世代の研究者と交流をもつことができたことの意義は大きく、新たな人脈形成の足掛かりとして今後に繋げていきたい。また、口頭発表では、パンダの研究者からホルモン測定に関するアドバイスを受けることができ有意義なものとなった。さらに優秀発表賞を授受することができ、自信をつけることができた。

2. ウェイカンバス国立公園訪問（10月30日～11月4日）

学会に合わせて、国立公園内で活動する **Elephant Response Unit (ERU)** のオーガナイザーである **Nasurddin** 氏にゾウ採精方法をレクチャーしていただく予定だったが、村へ出沒した野生ゾウの対処で不在にしていた。そこで、同氏からの紹介で、**ERU** のトップである **Sulistiyono** 氏に **ERU** の活動を紹介していただくと共に、**ERU** キャンプ、コンサベーションセンター、動物病院およびスマトラサイサンクチュアリを訪問した。野生のスマトラゾウは、5つのグループ、計200頭が確認されており、村と国立公園の境界を移動しているため、村人との軋轢が生じ、この問題に対処するため、2010年に **ERU** が設立された。具体的には、ゾウ使い（マフー）により訓練された飼育ゾウを使って、野生ゾウの誘導や救助を行っていた。現在、**ERU** キャンプ（活動拠点）は国立公園内南北2か所ずつの計4か所存在する。滞在期間の前半3日間は、各 **ERU** キャンプ（3か所）を回り、マフー会議にも参加した。この会議では、各 **ERU** チームの活動やパトロールで見つけたワナなどの情報共有がされていた。また、私の本来の目的であるゾウの採精に関して、マフー達が興味を持ってくれ、採精を試みてくれたが、実際に精液を採取することはできなかった。後半3日間は、コンサベーションセンターに滞在し、動物病院を見学した。飼育ゾウ97頭に対し獣医師2名が従事し、有事の際に各キャンプに呼ばれ診療を行うスタイルだった。また、**Sulistiyono** 氏の協力により、非公開エリアであるスマトラサイサンクチュアリに訪問させてもらった。現存する野生のスマトラサイは80頭、うち1/4が国立公園内に生息している。当エリアではスマトラサイ7頭が飼育され、2016年に初めて繁殖に成功している。サイ専属獣医師の **Dr. Zulfi** から、スマトラサイの繁殖、人工授精の取り組みなどご教授いただいた。スマトラサイを初めて見た時の感動は忘れることはできず、この動物の繁殖に貢献するには自分には何が必要なのか考えさせられる機会となった。急な予定変更があったものの、得られた経験や情報は何にも代えがたいものとなった。

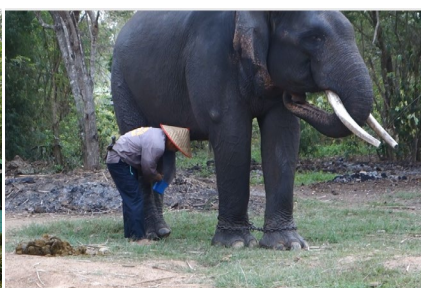
最後に、学会の参加にあたって、本大学院リーディングプログラムより渡航費の助成を頂いたことに感謝致します。



学会メイン会場の様子



最初に設立された ERU



採精の様子

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 獣医学院・繁殖学教室 教授 片桐 成二 印
---------	---

※1 電子媒体を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp